

# 子ども教育委員会会議



日 時：令和5年8月9日（水）10：00～12：00

場 所：教育委員会6階A・B会議室

札幌市教育委員会

## 1. はじめに

札幌市教育委員会では、「(仮称) 第2期札幌市教育振興基本計画」の策定にあたり、子どもの意見を取り入れるために、「子ども教育委員会会議」を開催しました。

この会議では、市立学校の児童生徒15名を「1日子ども教育委員」(以下、「子ども教育委員」という。)に任命し、市立札幌開成中等教育学校(以下、「開成」という。)の生徒5名の進行のもと、3つのテーマについて話し合いが行われました。

## 2. 開催概要

### ■ 日時

令和5年8月9日(水) 10:00~12:00

### ■ 場所

札幌市教育委員会6階A・B会議室

### ■ 実施内容

開成の生徒による会議の企画運営のもと、「教育ビジョン」「コミュニティ・スクール」「文化芸術」の3つのテーマについて、子ども教育委員15名で校種を越えた話し合いを行いました。オブザーバーとして札幌市教育委員4名も参加しました。

事前に開成の生徒が、3つのテーマについて関する動画を作成し、動画をみた子どもたちから意見聴取を行いました。そして動画をみて、これからの教育や文化・芸術について、他の人たちと一緒に考えてみたいと思った子どもたちを募集し、行われたものです。

## 3. 会議の内容

### (1) 檜田教育長から挨拶

はじめに、札幌市教育委員会の檜田教育長から挨拶がありました。

### (2) 子ども教育委員の任命

檜田教育長から、子ども教育委員のみなさんへ、任命状を交付しました。

### (3) 教育委員の紹介

教育委員の自己紹介を行いました。



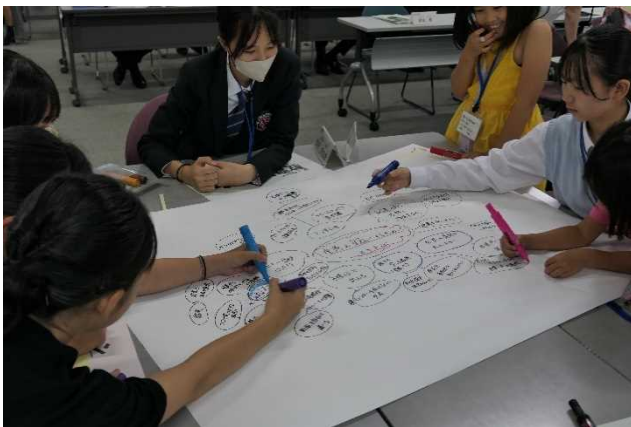




## 【2部：テーマ別討議】

第2部では、子ども教育委員がそれぞれ興味を持ったテーマごとに分かれて討議を行いました。第1部で出てきた意見をもとにマインドマップを活用して意見を広げていきました。

また、第2部からは教育委員も子どもたちとの議論に参加しました。最後には、各グループで出てきた意見について発表が行われました。



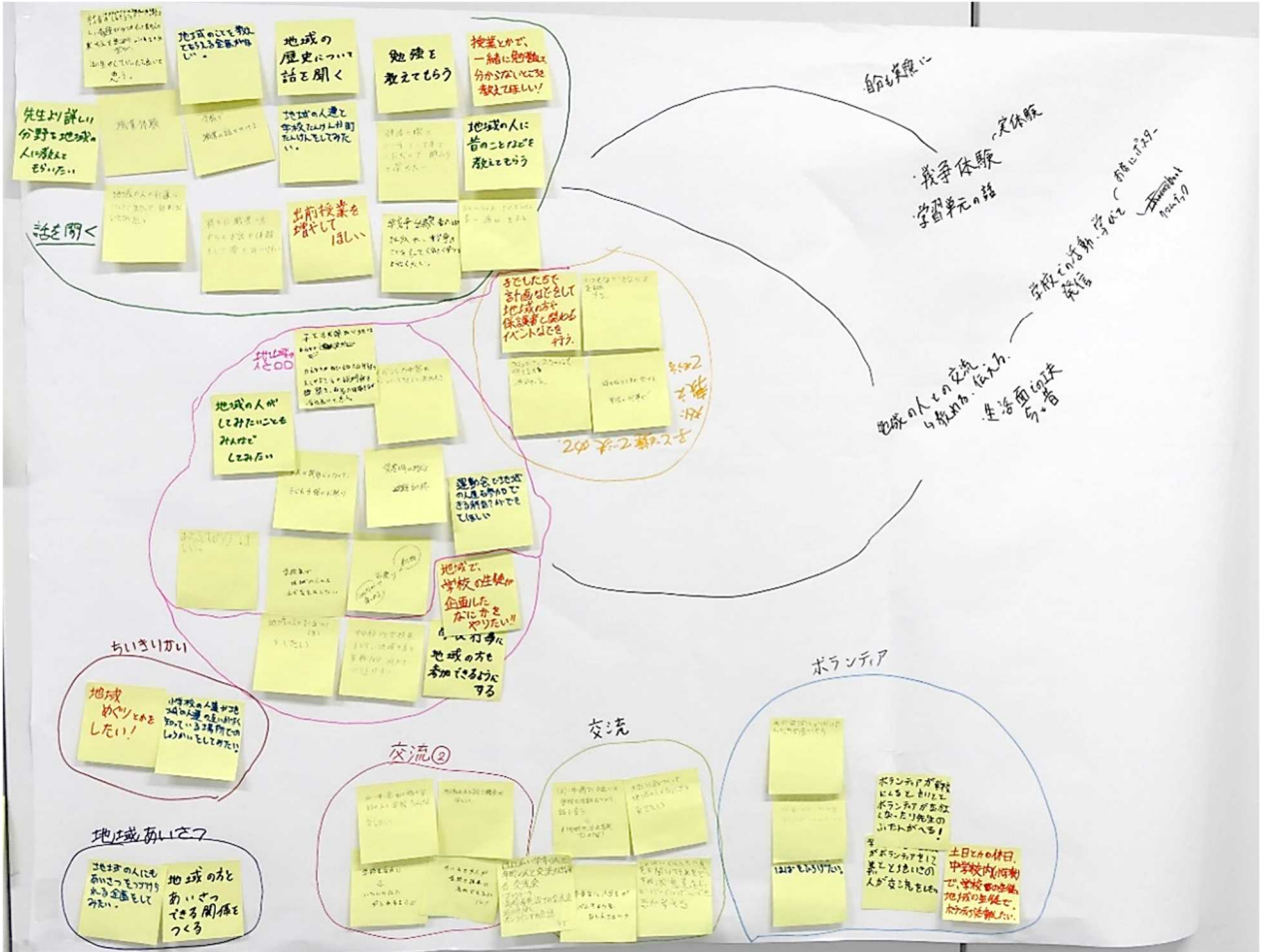
## ■「教育ビジョン」グループの発表



### (発表内容)「理想の学校に向けてできること」

- 学校内でたくさんの人と交流する**  
 ⇒高学年と低学年が一緒に活動できる機会を増やす。そのために委員会を全学年で行ったり、全学年で活動する企画を考える委員会をつくったりする。
- デジタル化(クロムブックの活用)**  
 ⇒デジタル教科書の導入。端末を使って家でも授業を受けられる。授業を録画して、端末でみる事ができれば、学校を休んだときにみることができ、学び直しもできる。
- 生徒の意見を大人に聞いてもらい認めてもらいたい**  
 ⇒生徒中心の話し合いを増やしたり、大人に相談できる機会をつくったりする。
- 誰でも学べる場所**  
 ⇒小さい子から大人まで改めて学べる機会をつくる。普段、学校に来ることのない人でも来やすいように、自習室等をつくる。
- みんな平等で平和な学校**  
 ⇒多様性を認める⇒服装の男女の違いがないように制服を自由に選べるようにする。障がいのもっている方との交流を増やし、理解を深める。
- 過ごしやすい学校**  
 ⇒エアコンをつけてほしい。涼しく学びやすい環境に。

## ■「コミュニティ・スクール」グループの発表



(発表内容)「地域の人たちに、どのようなことを応援してほしいか」

- 地域の方から話をきく  
 ⇒先生より詳しい分野を教えてもらう。  
 様々な職業の話聞き、夢を見つける。  
 地域の歴史を知る。地域めぐり。  
 昔の遊びを教えてもらう。
- 話をきくことから体験につながる  
 ⇒教わったことが学校での活動につながる。活動することで、学びが深まる。  
 お店にポスターを貼ってもらい、学びの発信。
- 地域の方との交流  
 ⇒学校に地域の方が自由に入ることができるようにする。  
 地域の方も学校の授業に参加できるようにする。  
 地域で生徒企画のイベントを行う。子ども主催のお祭りなど。  
 地域の方も運動会に参加できる種目があったり、学校祭等の行事で装飾を一緒に行ったりなど、学校行事を地域の人とつくる。  
 地域のゴミ拾いなどボランティア活動を行う。



## ■「文化芸術」グループの発表



### (発表内容)「子どもたちが文化芸術に興味をもつには」

#### ・学校で体験・見る

⇒学校祭の製作時間を延ばしてつくりたい。

学校の授業に専門家としてきて教えてほしい。

見るだけでなく、自分たちも体験できる機会がほしい。

低学年でも芸術文化に触れる機会があるといい。

学校での体験は、興味の有無に関わらず、みんなが行うこと。家庭で行けないところでも行くことができる。

#### ・家庭で体験・見る

⇒学校で美術館等に行くことにより、興味が芽生え、家庭でも行くことのきっかけにつながる。

家庭で再び行くことは、子ども自身の理解が深まるだけでなく、子どもを通して、親の芸術文化の理解、興味にもつながる。

家庭で行く機会を増やすには、親子連れや小中学生の入館料を無料にする。子どもが泣くので、コンサート等に行くことができない人もいますので、親子連れ専用の日を設定する。

## (5) 教育委員から挨拶

教育委員を代表して、阿部委員から、会議の感想等のお話があり、閉会しました。



## 今後に向けて

子ども教育委員会会議の開催は、平成26年の現行計画策定に続き、2回目の開催でしたが、今回は、意見聴取に向けた動画作成からはじまり、当日の進行も市立札幌開成中等教育学校の生徒が中心となって行うなど、より子ども主体となった会議を開催することができました。

教育に関する計画策定及び施策の推進にあたり、子どもの意見を大切にすることを第一に考え、子どもの視点に立った施策・取組を実現したいと考えています。本会議内での子どもたちから出てきた意見を踏まえ、よりよい計画にしたいと考えています。

### ○会議出席者

1. 子ども教育委員 15名
2. 子ども教育委員会会議運営担当（市立札幌開成中等教育学校生徒）5名
3. 教育長・教育委員  
檜田教育長、阿部夕子委員、佐藤淳委員、石井知子委員、道尻豊委員